



輝き人生 ライフ

このコーナーではきりと輝きながら活躍する市民を紹介します。

音楽の魅力 これからも伝えていきたい

酒井 賢二さん (南野町)



5月4日(祝)に開催されるコンサートに向けて、歴代の卒業生などと懸命に練習に励んでいます。

中学校の音楽教諭として、また吹奏楽部の顧問として、市内では関中学校23年、亀山中学校6年、中部中学校3年と長年にわたり生徒たちに音楽を指導してきた酒井賢二さん(60歳)。吹奏楽部の教員は数百人にも及び、地域の音楽文化の向上に情熱を注いできました。5月には、市文化会館で歴代の卒業生が企画運営し還暦記念コンサートが開催されるなど、音楽でつながった“輪”を大切にしながら、現在も意欲的に音楽活動に取り組んでいます。

一音楽の指導者になったきっかけは?

「音大生の時に中学校で音楽を教える機会があり、中学生でもここまで本格的な演奏ができるのかと驚いたことがありました。そんな無限の可能性を持った中学生と本物の演奏を一緒に作り上げてい

きたいと強く感じたのがきっかけです。そして、音楽教諭となって最初の赴任先である関中学校で、新たに創部させていただいた吹奏楽部の顧問として、指導者としての吹奏楽活動をスタートしました。一どのような指導を?

「少しでも本物の音楽を知って感じてほしい、そして少しでもそれに近づける演奏ができればとの思いで指導してきました。それでも、そのために私自身もどのように音楽と向き合い、どのように伝えていくべきかを、すぐれた指導者や生徒たちから学ぶことも多くありました。また、集団の調和である吹奏楽において、生徒たちはチームワークの大切さや個々が果たすべき役割の重要性などを感じとり、自ら学んでいってくれたと思います。」

一嬉しいと感じたときは?

「たくさんありますが最近では、今年3月に関中学校吹奏楽部の部員とその保護者が還暦お祝い会を催してくれて感謝状までいただいたのですが、その中の『貴方の一人一人を大切に卒にはめ込まない教育が私たちの自信となりました。負けない心・勇気の心・感謝の心を育み学ぶことができました』との言葉にはとても感激しました。」

一これからは?

「音楽を奏でる素晴らしさ、みんなで作る喜びをこれからも伝えていきたいと思います。そのために私自身も指導者としての能力、また指揮者・演奏家としての技術を一層向上させたいと思います。また、私を育ててくれた地域(亀山)に、音楽を通して何か恩返しができたらと思っています。」



亀山市名誉市民

彫刻家 中村 晋也

作品紹介「ふるさとあい」Vol.13

「島津義弘公」(昭和63(1988)年建立)

“関ヶ原の戦い”で西軍(豊臣方)に付いた島津義弘公は、最後まで奮戦するうちに三方を東軍(徳川方)に囲まれ退路を断たれました。一時は死を覚悟した義弘公ですが、家臣にいさめられ敵陣突破を敢行します。家康の本陣をかすめながらの突破に成功し「敗れても島津」と称賛されました。制作にあたって関ヶ原の資料館を訪ねた中村は、合戦絵図に○に十の旗印を見つけ、「自分もその中のひとりであるような錯覚におそわれた」と言います。馬に鞭打ち疾風のごとく駆け抜けた戦国の武将を、馬上の勇姿に求めた作品です。



3.3m(高さ)×3.5m(幅)×1.8cm(奥行き)
(鹿児島県日置市JR伊集院駅前)

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館([URL http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html](http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html))